

白内障手術の新時代到来！

レーザー手術で若い頃の目を取り戻す

加齢により発症する白内障は薬では治せないため、治療には手術が必要になる。最新の手術法と若返りの多焦点眼内レンズについて高山眼科の高山院長に話を伺った。

加齢とともに視界が濁り見えづらくなる白内障

「視界が全体的にかすむ」「視力が低下する」「光をまぶしく感じる」「暗いときと明るいときで見え方が違う」……加齢により、目にこんな症状が出てきたら、白内障の疑いがあるかもしれない。

白内障とは、目の中の水晶体が濁り視力低下を引き起こす病気。年齢

体験者の声

- 子どもの頃から視力が悪く、眼鏡をかけない生活が夢のようです。目の周りのうっとうしい感覚から解放されました。K・Yさん(50代・女性)
- 術後、伝票や書類の読み書きがとても楽になりました。視界が明るくなり、夜道を歩くのも安心です。K・Oさん(70代・男性)

白内障の手術は、濁ってしまった水晶体にかわって人工の水晶体(眼内レンズ)を移植するというもの。この眼内レンズには、「単焦点」と「多焦点」がある。

これまでは遠方が手元か、どちらか1点にピントを合わせた単焦点の

移植が主流だった。しかし現在は、遠近両用の多焦点を希望する人が急増している。遠方から手元40センチくらいまで鮮明に見える、多焦点眼内レンズが開発されたので目が若返るので。

その手術方法として脚光を浴びているのが、フェムトセカンドレーザーだ。これは、レーシックや角膜移植などに利用されている、コンピュータを使った最新技術。高山眼科では8月から、フェムトセカンドレーザーを使った眼内レンズ移植手術を導入し、白内障の治療にあたって

「眼には個人差があるので、より正確で精度の高いフェムトセカンドレーザーが最適です」と、高山先生は語る。体への負担も少なく、安全性も高いため先進医療として扱われているそう。

「今後、眼内レンズの移植法として、フェムトセカンドレーザーがスタンダードになっていくでしょう」

先進医療に認定されている手術は保険適用外診療となり費用が高額になる。それでも手術を受けるメリットについては高山先生に何うと「1つは老眼の矯正です。老眼の原因は加齢で眼のピントを合わせる力が衰えるものですが、多焦点眼内レンズを移植するとメガネなしでも遠近両方にピントが合うようになるので、結果的に老眼も矯正されるのです」

老眼を矯正することは難しいため、この副次効果はありがたい。

「もう1つは手術費用の軽減です。生命保険などの『先進医療特約』に加入している方は対象となり生命保険会社などから手術費用が出るので、手術の自己負担金をが不要になります」

レーザーで正確かつ安全に手術でき多焦点眼内レンズが目若返らせる

多焦点眼内レンズでメガネいらず生命保険特約が適用される場合も

白内障の治療に使われる眼内レンズの見え方の違い

単焦点眼内レンズ
遠くにピントが合い手前はぼやけて見えるため、矯正用のメガネが必要に

多焦点眼内レンズ
遠くと近くにピントが合うため、日常生活が快適に過ごせる

取材協力

医療法人秀緑会 高山眼科

0120-133712

緑町医院 TEL.027-361-6888 高崎市緑町1-5-3

駅前医院 TEL.027-327-3366 高崎市八島町70ラ・メルセ3F

日曜日もやってます 午前10:00~12:00 午後13:00~16:00

先進医療(緑町医院のみ)

フェムトセカンドレーザーを使用した多焦点眼内レンズ手術

片眼700,000円

先進医療特約加入の方は個人負担不要

WEBサイトをリニューアルしました!

高山眼科 検索